

Global Goalkeepers Award
岸田総理大臣スピーチ

1 冒頭

●メリンダ・ゲイツ共同議長、

ビル・ゲイツ共同議長、

御出席の皆様、

●本日、日本の総理大臣として、グローバル・ゴールキーパーズ・アワードを受賞したことを誠に光栄に思います。尊敬するビル・ゲイツ共同議長と1年ぶりの再会を果たす機会が、このような栄誉ある授賞式であることに深い感慨を覚えています。

●まず始めに、創設以来「すべての生命の価値は等しい（“all lives have equal value.”）」との信念の下、国際保健分野を中心として「すべての人が健康的で生産的な生活を送れるように支援を行う」という使命を果たされてきたゲイツ財団に、改めて敬意を表します。

2 SDGs 達成に向けた取組の加速と国際保健

- 本年は持続可能な開発目標SDGsの達成に向けた中間年ですが、その達成は危機に瀕しています。こうした中で、SDGs達成に向けた取組を加速させることが、これまで以上に求められています。特に、国際保健は人間の安全保障を実現する上で不可欠な分野です。新型コロナウイルスによるパンデミックはユニバーサル・ヘルス・カバレッジの重要性を改めて浮き彫りにしました。

- 本年5月のG7広島サミットでは、国際保健分野に関し、将来の健康危機への予防・備え・対応、「PPR(ピーピーアール)」の強化に資するグローバルヘルス・アーキテクチャーの構築・強化、より強靱、より公平、より持続可能なUHCの達成への貢献、ヘルス・イノベーションの促進を軸に議論を行いました。また、日本として、官民合わせて75億ドル規模、G7として480億ドル以上の資金貢献を行うことを表明しました。

- 国際保健課題を始めとする地球規模課題の解決には、資金面も含めて、民間セクターのより一層の貢献が必要不可欠です。その意味においても、ゲイツ財団のますますの御活躍を期待しています。日本政府としても、2030年までのSDGs達成に向け、より緊密に連携していきたいと考えています。

3 結語

- 両共同議長を始め本アワードの関係者の皆様に改めて御礼を申し上げます。この栄誉は、私ひとりの力ではなく、日本国民始め、共に歩んできたパートナーである御出席の皆様のお力添えあつてのものです。ありがとうございました。

(了)